国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1902

日本語教育論集

20号　2004

[寄稿]

漢字語彙力の評価と漢字教育の方法
—教育現場での実践研究のあり方を探る—　加納　千恵子

[研究論文]

台湾人上級日本語学習者の初対面接触会話におけるスピーチレベル・シフト
—日本語母語話者同士による会話との比較—　陳　文敏

「質問-説明」連鎖の終了に関する質的研究
—初級日本語クラスの一斉授業の場合 —　文野　峯子

[研究ノート]

現職日本語教師の言語教育観
—良い日本語教師像の分析をもとに—　八木　公子

[英文要旨]

[平成15年度日本語教育上級研修報告]
[平成14年度日本語教育研究プロジェクトコース報告]
[平成15年度日本語教育短期研修報告]

国立国語研究所

日本語教育論集
20

2004

日本語教育論集第20号

目次

[寄稿]
漢字語彙力の評価と漢字教育の方法 1
—教育現場での実践研究のあり方を探る— 加納 千恵子

[研究論文]
台湾人上級日本語学習者の初対面接触会話におけるスピーチレベル・シフト
—日本語母語話者同士による会話との比較— 陳 文敏 18

「質問-説明」連鎖の終了に関する質的研究—初級日本語クラスの一斉授業の場合—
文野 峯子 34

[研究ノート]
現職日本語教師の言語教育観—良い日本語教師像の分析をもとに—
八木 公子 50

〔英文要旨〕 59

平成15年度日本語教育上級研修報告 63

平成15年度日本語教育研究プロジェクトコース報告 65

平成15年度日本語教育短期研修報告 67

『日本語教育論集』投稿規定・執筆要領 69

『日本語教育論集』投稿規定・執筆要領

1. 目的
本誌は，日本語教育および日本語教師教育の内容・方法に関わる研究，特に，教育実践にもとづいた研究，新たな視点に立つ研究，将来の展開が期待される研究の成果を積極的に公表することにより，日本語教育の発展に寄与しようとするものである。

2. 投稿資格
上記の目的に合致する内容の原稿であれば，投稿資格は問わない。

3. 原稿の種類
投稿原稿は未発表のものに限る。ただし，学会における口頭発表等を論文の形式にまとめなおしたものも未発表とみなす。投稿原稿の種類は以下のとおり。

研究論文：オリジナルな知見や提言を含む理論的，実証的な研究論文
報　　告：教育実践の報告・分析，調査報告，等。
研究ノート：上記の研究論文および報告に至る前の，萌芽的・探索的な段階の研究・報告，等

尚，特定のテーマを設け，内外の研究者に執筆を依頼することがある。

4. 原稿の書式その他
1) 原稿は日本語または英語で執筆する。
2) 原稿は和文論文の場合，A4判横書き，40字×35行で作成し，研究論文および報告は14ページ以内，研究ノートは8ページ以内とする。英文論文の場合，A4判1ページあたり30行とし研究論文および報告は20ページ以内，研究ノートは12ページ以内。いずれも，タイトル，図表，資料等を含むこととする。
3) タイトル（和文および英文），要旨（和文論文の場合は300字以内，英文論文の場合は200語以内），キーワード（5つ以内），本文の順で記述する。
4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。
5) 3)に示した要旨とは別に，英文要旨・英文キーワード（和文論文の場合）または和文要旨・和文キーワード（英文論文の場合）を添付する。分量は3)と同じ。
6) 原稿はワープロを使用してできるだけ刷り上がり時のイメージに近い形で作成することが望ましい。
7) 投稿時は，審査用複写3部を提出し，審査終了後編集委員会の通知に従い印刷用原稿およびフロッピーを提出する。原稿は原則として返却しない。
8) 別紙に，論文タイトル，上記3.の内容区分，執筆者，所属機関名，連絡先（郵便番号，住所，電話番号，ファクス番号，Eメールアドレス）を記し，原稿とともに提出する。

5. 投稿締め切り
21号においては，2004年9月1日（必着）を締め切りとする。

6. 採否の決定
本誌編集委員会が査読・審査し，採否を決定したうえ，締め切り日から3か月以内に結果を知らせる。

7. 採録決定後の修正
採録決定後，体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。

8. 採録となった執筆者には，掲載号2部を進呈する。

9. 著作権
1) 図版の転載など著作権にかかわることがらは，投稿の際に執筆者の責任において必要な処理を行うこと。
2) 掲載された論文等の著作権（著作権法第27条，28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

10. 発行予定
2005年3月末

＊投稿原稿は，下記編集委員会まで郵送のこと。
〒115-8620　東京都北区西が丘3-9-14　国立国語研究所『日本語教育論集』編集委員会
＊問い合わせは，文書・FaxまたはE-mailで編集委員会まで。
〒115-8620　東京都北区西が丘3-9-14　国立国語研究所『日本語教育論集』編集委員会
Fax：03-3900-6559
E-mail：ronshu@kokken.go.jp
URL：http://www.kokken.go.jp/jsl/

◇・◇・◇・◇編集後記◇・◇・◇・◇

『日本語教育論集』も20号を迎えました。本論集の刊行開始から，20年がたったということです。この20年間に，本論集は少しずつその姿を変えてきました。まず，修了生及び関係者が投稿できる場であったものを，日本語教育関係者であればどなたでも投稿できる論文集とし，内容面においては，日本語教育における様々な分野の中で，特に教育実践・教師教育にかかわる論文を積極的に紹介する，という方向性を明確にしました。

本論集は長年，国立国語研究所が実施する日本語教育長期専門研修について詳しく報告をすることによって，教師の養成・研修のあり方を常に問い続けてきましたが，数年前からは，論文集としての役割を前面に打ち出しています。そして，少しずつではありますが，『日本語教育論集』の発行目的を知る方が増え，投稿論文の内容が，本論集が求める方向性と一致してきたのは本当にうれしいことです。

今回は，12編の投稿があり，3編が採録されました。いずれも学習者あるいは教師に視点が置かれた論文です。そして，今号の寄稿は加納千恵子さんに御執筆をお願いいたしました。漢字能力の評価法開発の過程を紹介しつつ，現場で活躍する教師が実践研究を行う上での留意点等について，具体的かつ丁寧に述べていただいています。日本語教師の中には，とかく忙しさに紛れ，日々の授業をこなすのが精一杯という方が多いと思います。しかし，この論文では，実践の中から見いだされる問題点をもとに，加納さん御自身がいかに研究を行い，得られた成果を現場そして日本語教育全体にどう還元しているか，という具体例を紹介していただきました。この御寄稿により，今後，現場を抱える日本語教師の実践研究に対する理解が進み，こういった研究をする方が増えることを確信しています。

『日本語教育論集』は教室研究，学習者研究，教師教育研究など日本語教育の実践に深くかかわりのあるものを中心に取り上げることを主眼としております。このねらいは，号を重ねながら，少しずつみなさまにお伝えできつつあるようです。今後，本誌の特徴がより一層明確となり，日本語教育の実践にかかわる論文が数多く御紹介できるよう，編集委員一同，努力・工夫してまいります。

皆様の積極的な投稿を期待しております。また，本誌に関するみなさまの御意見をお待ちしております。

編集委員会
（記：金田）

＊『日本語教育論集』ホームページ：http://www.kokken.go.jp/jsl
＊ 御意見・御質問はこちらへ：ronshu@kokken.go.jp

『日本語教育論集』20号　執筆者

加納　千恵子　（筑波大学）
陳　　文敏　　（名古屋大学大学院博士課程満期退学）
文野　峯子　　（人間環境大学）
八木　公子　　（津田塾大学）

日本語教育論集編集委員会

委員

池上　摩希子　（中国帰国者定着促進センター）
石井　恵理子　（国立国語研究所）
小河原　義朗　（国立国語研究所）
金田　智子　　（国立国語研究所）
小林　ミナ　　（北海道大学留学生センター／大学院国際広報メディア研究科）
庄司　惠雄　　（お茶の水女子大学留学生センター）
杉戸　清樹　　（国立国語研究所）
山崎　けい子　（富山大学）

査読協力者（所属略）

井上　優，宇佐美　洋，熊谷　智子，菅井　英明，椙本　総子，徳井　厚子，浜田　麻里

事務局

福富　七重

日本語教育論集　20

発行　平成16年3月　　平15－17
編集　国立国語研究所日本語教育部門
〒115-8620　東京都北区西が丘3-9-14
TEL:03-3900-3111（代表）
FAX:03-3900-6559
URL:http://www.kokken.go.jp/jsl/

2004

日本語教育論集

ISSN 1346-9762